

千葉の無形民俗文化財 No.2

けんみんれん(千葉県無形民俗文化財連絡協議会)会報
2008.3.3.

表彰おめでとうございます

当会から今年度、以下の方々・団体が表彰を受け、無形民俗文化財の継承に長年尽力された功績が讃えられました。おめでとうございます。ますますのご活躍、ご発展を祈念申し上げます。

◆地域文化功労者【文部科学大臣表彰】

片岡昭二(会長)

◆千葉県教育功労者【千葉県教育委員会教育長表彰】

石井ナミ(副会長)

鶴峯八幡宮十二座神楽保存会(市原市・鶴峯八幡の神楽)

武西六座念仏称念仏踊り保存会(印西市・武西の六座念仏の称念仏踊り)

◆地域伝統文化功労者表彰【財団法人伝統文化活性化国民協会表彰】

北風原羯鼓舞保存会(鴨川市・北風原の羯鼓舞)

ガンバッテます! 伝承団体の紹介②: 鬼来迎保存会(横芝光町)

2月5日、早春の温かな陽光降り注ぐ虫生の里に、保存会会長の深田隆明さんをお訪ねしました。虫生は全25戸の小さな集落ですが、近年、3名の新しい演じ手を得たとお聞きし、伝承のご苦労や今後の展望についてお話しを伺いました。

「鬼来迎」は演じる人が閻魔大王・鬼婆・黒鬼・赤鬼など7名で、ほかに舞台裏で鑊鉞や戸板を叩く人や和讃を唱える人なども必要です。並大抵のことでは、毎年演じ続けていくことはできないでしょう。しかし小さな集落であるがゆえに却って絶えることなく伝えられてきたのではないかと深田さんはおっしゃいます。人口が増えると責任が分散しがちですが、虫生では、理屈抜きでやるものだという意識を村全体で持っており、保存会には25軒のすべての家から参加することになっています。また、賽の河原の場面では10歳に満たない子どもが5人ほど舞台に登ります。この経験を踏むことで、大人になったら鬼来迎をやるんだという意識を、自然に持つようになるそうです。

ただ近年は、若い人が地元に戻らなくなりました。新しい演じ手を迎えたときも、前もって声かけをし、入りやすい雰囲気作りに努めたり、練習では先輩がつきっきりで教えるなどと、気を遣ったそうです。昨年は新メンバーですべてを通して演じることができ、これでしばらくは大丈夫と安堵したそうですが、次の世代は高校生になってしまいます。

寺や産土様、鬼来迎、そしてほたるが飛びヤマユリの咲く土地を大切にしたい、先祖から伝えられたものを自分たちの時代に途絶えさせる訳にはいかない、そのためには会長としても、筋を通して頑固にならざるを得ないし、いいかげんなどところで迎合する訳にはいかないのだと熱く語りつつも、一方で、今後は担い手を地区外から募っていかねばならなくなるのではないかと、気を揉んでおられる深田さん。温かな笑顔が印象的でした。



◆撮影事業報告

野田も雨、三島も雨……。今年度の映像記録作成事業は雨に泣きました。保存会の皆様にはご心配・ご迷惑をおかけしたうえ、思うような成果品とならず申し訳ありません。

●野田のつく舞

「雨でも、台風でない限りは実施します。」と伺っていました。それが7月14日当日は、季節はずれの台風の直撃！！12月9日「第10回野田市民俗芸能のつどい」を撮影させていただき、過去の映像とあわせてまとめています。

●三島の棒術と羯鼓舞

昨年度も雨でしたので、前日、天気予報に雨マークがないことを確認し、今年は大丈夫だと意気込みました。ところが9月29日の宵祭りは降ったりやんだりの天気……。それでも望みを捨てずに撮影を進めましたが、30日の祭礼当日は朝から強い雨。今年度も中止となってしまいました。残念！！宵祭りの映像と、過去の祭礼の映像をまとめています。

●DVD「千葉県の民俗芸能（4）つく舞」

(1) 獅子神楽 (2) 念仏踊り・万作踊り (3) 三番叟 に続き、県内のつく舞をわかりやすく紹介するためのDVDを作成しています。野田のつく舞、多古のしいかご舞、太田のエンヤーホーの3件を収めます。

●「房総の出羽三山信仰」「安房のみのご踊り」

市原市上高根と木更津市金田を中心に出羽三山信仰の撮影を3年計画で実施しています。また洲崎踊りなど、安房地域のみのご踊りを2年の計画で撮影しています。

◆新指定および解除

太田のエンヤーホー（旭市）が県指定文化財となります。多古のしいかご舞に良く似たつく舞で、赤獅子・青獅子・かまきり、みみずく、鹿などの動物面の地舞のあと、登り獅子がつく柱で曲芸を行います。7月27日の夜、八坂神社で奉納されます。

富塚の神楽（白井市）は、残念ながら継承が途絶え、県指定文化財解除となります。

地域の誇り？ 負担？

飯岡の芋念仏に続き、今年度は富塚の神楽が県指定文化財解除となりました。後継者がなく、伝承が途絶えてしまったためです。後継者不足に悩む伝承団体は少なくありません。郷土芸能を伝承していくことに負担を感じてますか？それとも、楽しみつつ伝承しておられますか？地域の誇りになってますか？郷土の芸能はもともと娯楽として、面白いから、楽しいから演じてきたもののはずですが、文化財として指定されることで、堅苦しいものになってはいないでしょうか？

地元の方たちが大切にしているものだからこそ、その伝承をお手伝いするのが行政なのは・・・？そうありたいと念じつつ、担当者としても悩みのつきない昨今です。

県民連会報第2号をお届けします。今後も年2回発行の予定です。皆様の情報交換の場になればと願っています。原稿・取材依頼等をお寄せください。

※会報キャラクターのオニババは鬼来迎から使わせていただいています。

千葉県無形民俗文化財連絡協議会事務局（千葉県教育庁教育振興部文化財課内）

〒260-8662 千葉県千葉市中央区市場町1-1 TEL: 043-223-4082

けんみんれん会報「千葉の無形民俗文化財」No.2 発行：2008年3月3日



オニババ